

石巻健育会病院

鈴木 淳史 （ 管理栄養士 / 栄養科 ）

功 績 鈴木は、栄養科の責任者として昨今の食材費の高騰に強い危機感を持ち、経費削減と業務効率化、そして患者対応の質を両立させる取り組みを常に考えております。

今回は経管栄養剤の見直しを行い、形態の再変更を提案・実行した結果、年間約▲270万円の経費削減が可能となりました。病院経営への貢献は大きく、全体の模範となる功績。

推 薦 者 千葉 祐輔 （ 課長 / 医事課 / 事務部 ）

推 薦 理 由 物価高騰の中、現場の業務実態を丁寧に見直し、経管栄養剤の運用を再検討。業務効率とコスト意識の両立を図りながら、看護師や調理師との連携を通じてスムーズな変更を実現しました。的確な状況分析と行動力、多職種を巻き込む調整力を発揮し、職員の意識向上にもつながる成果を上げた点は、理事長賞にふさわしい功績であり推薦させていただきます。

内 容

経管栄養剤は、数年前に看護師の業務効率化を目的として、大容量タイプから一人用の小分けタイプへ変更されました。予め患者単位に1個のパックに分かれているため、作業時間の短縮にはつながったものの、食材や諸物価高騰の影響により経費負担が増している中、鈴木科長は様々な業務の中のコスト削減の可能性を模索していました。

再度、経管栄養業務の実態を見直したところ、看護部の業務負担の真の要因となっていたものは、実は小分け作業そのものよりも、前期、感染対策のために中止したボトル・チューブの洗浄・乾燥作業であったことに着目。

看護師に実情を確認し、調理師とも協議した上で、栄養剤は再び大容量タイプへ戻して、栄養科で患者単位に軽量して小分けする案を看護部長・師長会議で提案。看護部の検討・協力も得て、2025年5月下旬より変更を実施しました。

結果、月の途中からですが5月単月で11万円の経費削減を達成。年間では▲270万円に及ぶコスト削減が見込まれています。この取り組みは、業務効率とコスト意識の両立を実現しただけでなく、管理栄養士や調理師の「自分たちの工夫と努力で大きな経営貢献ができる」という意識改革にもつながりました。「予算と自分の役割」に係るスモールミーティングでも、栄養科スタッフが最初に必ず本件の取り組みを挙げるなど、全体のモチベーション向上にも寄与しました。